

健全母性育成事業の新たな展開に関する研究 —地域ぐるみの思春期健全育成の試み（その2モデル校の取組み）—

伊藤桂子*（報告）

要約：

春日井市思春期教育研究委員会（元年度報告）の学校教育部会は指導者用ハンドブック「性に関する指導」を作成し、モデル小・中学校を指定し、全校教師による、また保護者との連携による実践研究を行った。

見出し語：全校教師による性教育、キーパーソン、学校と家庭との連携

はじめに：

春日井市は、青少年の健全育成を願って官民一体となった「思春期教育研究委員会（平成元年度報告）」を昭和62年1月発足させ、その中に家庭・学校・社会教育の3つの専門部会を設置した。

その内学校教育部会に於いては、昭和62年度に指導者用ハンドブックの検討を行い、従来の純潔教育や性器教育から脱皮した性教育のあり方、即ち性を明るく自然なこととして扱った“現在の性教育”の理念①を明確にするとともに、そのねらい②や教師の役割③、小中学校の学年別の指導計画や指導案、さらには豊富な統計資料や参考図表を網羅した具体的な生徒指導の手引「性に関する指導」を作成した。

従いで昭和63年度には、この指導案を検証するモデル校が指定され、2年間にわたって実践研究が行われたので、その取組みの概要について報告する。

取組みの概要：

A 春日井市立柏原小学校（25クラス）の取組み

1 第一年次の取組み

- (1) 校内研究推進体制の確立
- (2) ハンドブック「性に関する指導」に基づいた検証授業
- (3) 性に関する意識と実態の調査（児童）
- (4) 独自の指導計画の策定と指導案の作成

2 第二年次の取組み

- (1) 新計画、指導案による実証授業
- (2) 性に関する意識と実態の調査（児童、保護者）
- (3) 保護者の授業参観と教師との懇談会
- (4) 講演会（保護者、教師）
- (5) 保健だより（性教育シリーズの掲載：養護教諭）

3 取組みのポイント

- (1) モデル校指定を機に、全職員の共通理解の下に実践され、独自の指導計画及び指導案が作成されたこと。
(Key person：校長、保健主事、養護教諭)

* 愛知県総務部青少年婦人室

- (2) PTA総会で校長より趣旨が説明され、保護者の理解協力が得られた。
(各学年ともに授業内容に親からの手紙を導入する、或いは公開授業後に懇談会をするなど、家庭との連携が図られた。)

B 春日井市立石尾台中学校(クラス)の取組み

1 第一年次の取組み

- (1) 校内研究方法の確認
(2) 手引書「性に関する指導」に基づいた検証授業
(3) 講演会

2 第二年次の取組み

- (1) 一年次の反省による研究体制(推進委員会、新計画、指導案)の整備
(2) 新計画、指導案による実証授業
(3) 性・生活・人生に関する意識・実態調査(生徒)
(4) 映画会(生徒、保護者、教師)
(5) 養護教諭の取組み
性に関する図書コーナー、保健だより(性教育シリーズ)、相談・指導、他教科(保健体育、家庭科)への関与

3 取組みのポイント

- (1) 検証授業の反省から研究体制を整備し、独自の指導計画、指導案(心理面、社会面に重点)が作成されたこと。
また、二年次には、事前アンケートや教材への工夫が行われたこと。
(2) 映画会を開催後、保護者による自主的懇談会がもたれ、性教育の重要性が教師側に確認されたこと。
(3) 中学3年に於いて、男女平等教育が行われたこと。

考察:

モデル校に於ける実践研究が比較的順調に行われた背景を探してみると。

- 1 思春期教育研究委員会の組織、目標及び年次計画が明確にされ、モデル校の取組みについて 市民的合意が成されていたこと。
- 2 学校教育部に於いて、事前に指導者用手引書が作成されていたこと。
- 3 校長、保健主事、養護教諭がキーパーソンの役割を演じ全校的取組みが出来たこと。
- 4 委員会発足以来毎年実施される思春期セミナーや指導者養成事業(日本家庭計画協会主催の思春期セミナーへの派遣)が成果を上げてきたこと。
- 5 年間各校30万円の研究予算が配分されたこと。

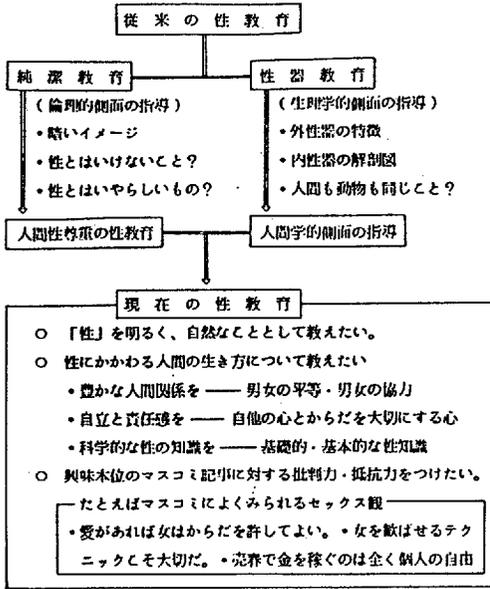
などが考えられる。

また、授業内容を見ると、一年次の検証授業の反省から、二年次のそれは工夫され、深まりもみせているが、学年が進むにつれて教師の側に迷いがみられ、特に中学校では生理面の教育が避けられる傾向にあり、ここに校医や保健所などの専門家の関与が必要のように思われる。

なお現在、研究成果をもとに、新たな指導者用手引書が検討されているので、これを活用して、市内全小中学校での取組みが開始されることを期待したい。

① 性教育のあり方

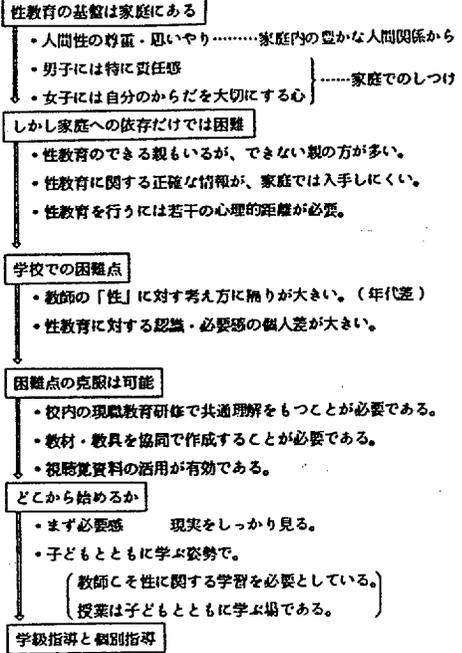
現在の性教育は、性にかかわる人間の生き方についての教育である。



② 性教育のねらい



③ 教師の役割



④ 指導計画

小学校1年	・きれいなからだ
小学校2年	・わたしのたんじょう
小学校3年	・ほくのからだ・わたしのからだ
小学校4年	・男女なかよく ・からだの発育
小学校5年	・からだの変化 (男女共修) ・精通現象 (男子) ・月経とその準備 (女子)
小学校6年	・いのちの誕生
中学校1年	・からだや心の発達と異性への関心 ・性の非行
中学校2年	・男女の交際 ・男女の性的欲求のちがい
中学校3年	・性の悩みとその解決 ・自他の生命の尊重

- 小学校1年～3年、年間1時間
- 小学校4年～6年、中学校1年～3年、年間2時間
- 主として、学級指導の時間を充てる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

春日井市思春期教育研究委員会(元年度報告)の学校教育部会は指導者用手引書「性に関する指導」を作成し、モデル小・中学校を指定し、全校教師による、また保護者との連携による実践研究を行った。